

ひと

スイゼンジノリは日本固有種の藍藻(バクテリアの一種)。これから抽出される「サ克蘭」という物質が注目されている。

分子の大きさが史上最大で極めて保水性が高い。これで肌の細胞をコーティングし皮膚を保護する効果を期待し、年内にも化粧品が登場する見込み。医薬品として皮膚治療に関する研究が国の支援で進む。廃棄物から資源回収する

絶滅危惧種のスイゼンジノリ保護を訴える

おか しま ま い こ
岡島 麻衣子さん (38)



熊本市出身。日本女子大修士課程修了。東工大博士。阪大を経て06年から北陸先端科学技術大学院大学研究員。

際の希少金属の吸着剤としての効果も確認されている。4年前、微生物研究の中でスイゼンジノリに出合った。生息する黄金川(福岡県朝倉市)を訪ね、清流にプカプカ流れる姿を目にし、その環境

に魅せられ、絶滅危惧種に指定されていることも知った。かつては熊本県と周辺各地で採れたが、今や同県内では地下水でわずかに養殖されているだけ。天然ものは全長2

金川で、年間採取量は数十トンの程度に過ぎない。黄金川の約5キロ北を流れる佐田川上流に78年に寺内ダムができたところから生産量が減少。業者、弁護士、専門家は「ダムにより黄金川の水量が減ったのが原因」とみている。現在、生育に必要な水の量と質の確保を国に要求し、更なる研究を進めている。

「その国固有の生物について、各国が国家の財産として必死に探し、守ろうとしている。スイゼンジノリは日本オリジナルの世界に誇る貴重な微生物資源。これを守るのは国の義務です」文・岸井雄作

写真・佐々木順一

2010.2.15